

「天理教社会福祉研究プロジェクト」研究会を開催

金子 昭

1月26日午後、おやさと研究所会議室にて「天理教社会福祉研究プロジェクト」第14回研究会が開催された。同プロジェクトは、天理教信仰をもつ中堅・若手社会福祉研究者や現場の実践者で構成するグループで、2001年に発足。代表は私がつとめ、事務局長は社会福祉専攻の渡辺一城・准教授が担当している。

小規模なグループながら天理教社会福祉に関する幅広い研究調査を積み重ねている。これまでに、天理教社会福祉施設連盟の委託による同連盟所属の施設アンケート調査（2003年）や、『天理教社会福祉の理論と展開』の刊行（2004年）などを行ってきた。現在は、毎年1回の研究会や情報交換を通じて、天理教社会福祉に関する研究活動に携わっている。

この度の研究会は14回目にあたり、研究会と会議の2部構成で行われた。研究会の部で発表されたのは、以下の3つの報告である。

- (1) 研究報告「釜ヶ崎における天理教の活動調査」

天理大学おやさと研究所 金子 昭

- (2) 実践報告「なら福祉会こころの実践」

特定非営利活動法人・なら福祉会こころ 福井美行

- (3) 実践報告「天理び〜すべ〜すプロジェクトについて」

天理大学社会福祉専攻 渡辺一城

各報告の後には、それぞれのテーマをめぐって、参加者によ

る活発な質疑応答や意見交換が行われた。引き続いて、会議の部に入り、「天理教社会福祉研究プロジェクト」の今後の計画などが話し合われた。

第267回研究報告会（1月31日）

天理教神学の輪郭と課題—『天理教神学序説』及び『天理教教義学序説』を手掛かりとして

深谷忠一

標記研究会で「天理教神学の輪郭と課題—『天理教神学序説』及び『天理教教義学序説』を手掛かりとして」と題して発表した。

初めに、「天理教神学の確立は、天理教の信仰内容を学問的に基礎づけ、現代知によって認定することを目的とする営みである」と述べた上、教理、教義、神学、教義学等の用語の定義をしてから、神学研究の輪郭について話を進め、それぞれの項目の研究を進めていく上での課題について言及した。

続いて、教学研究者の姿勢について、「教義学の進展は、たすけの進展に寄与するものとしてあらねばならない。教義学者は、思惟するだけでなく、思惟したことを実行しなければならない」と話した。

最後に、「現代科学の進展・発見がもたらした神学に関わる問題を仕分け、明らかにして、教会・信仰者の立場からの意思表示・回答を見出す努力をしたい。そして、最終的には、教義学によって、不完全性定理への回答を提示できることを願っている」と締めくくった。

おやさと研究所

「開講 20 周年記念・公開教学講座」のお知らせ

来年度（平成26年度）の公開教学講座は、9月から開講を予定しています。

詳細は本誌次号以降で改めてご案内致しますが、今回は開講20周年を記念して講演会と教学講座に分けて実施する予定です。

記念講演会では二人の講師がそれぞれのテーマに基づいて45分間ずつ講演し、教学講座では毎回一つのテーマに基づいて二人の講師が「教理」と「展開」に分けて講演する予定です。とくに「展開」では、実践的で日常のおたすけ場面に寄与できる内容を想定しています。

今回も、多数のみなさまのご来場をお待ちしています。



グローバル天理  
第15巻 第3号（通巻171号）

2014（平成26）年3月1日発行

© Oyasato Institute for the Study of Religion  
Tenri University

発行者 深谷忠一  
編集発行 天理大学 おやさと研究所  
〒632-8510 奈良県天理市杣之内町1050

TEL 0743-63-9080  
FAX 0743-63-7255  
URL <http://www.tenri-u.ac.jp/oyaken/j-home.htm>  
E-mail [oyaken@sta.tenri-u.ac.jp](mailto:oyaken@sta.tenri-u.ac.jp)

印刷 天理時報社

Printed in Japan